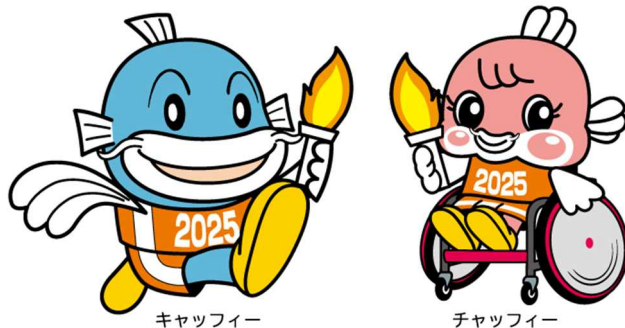


第 21 回総務企画専門委員会

会議資料



わた SHIGA 輝く国スポ・障スポマスコットキャラクター

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会 第21回総務企画専門委員会 次第

日時:令和6年7月18日(木)10:00~11:00

場所:大津合同庁舎7階 7-A会議室

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

- (1) 開催準備に係る令和6年度の主な取組、開催基本構想の進捗状況 【資料1】
- (2) わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ MLGs 宣言の取り組みについて 【資料2】
- (3) わた SHIGA 輝く国スポ 正式競技競技会場名の変更について 【資料3】
- (4) わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ主管団体名の変更について 【資料4】

4 審議事項

- (1) わた SHIGA 輝く国スポ 入場料金(案) 【資料5】
- (2) わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ競技会場の変更(案) 【資料6】

5 閉会

総務企画専門委員会 委員

(順不同:敬称略)

選 出 区 分	機関・団体名および役職名	委員
市 町 関 係	滋賀県市長会 事務局長	明石 芳夫
	滋賀県町村会 事務局長	千代 良明
ス ポ ー ツ 関 係	公益財団法人滋賀県スポーツ協会 常務理事	門 久仁裕
	滋賀県高等学校体育連盟 副会長	大森 文子
	滋賀県中学校体育連盟 副会長	赤尾 優文
	滋賀県スポーツ推進委員協議会 会長	山本 博一
	一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会 副会長	太田 千恵子
医 療 ・ 福 祉 関 係	滋賀県健康推進員団体連絡協議会 副会長	雲根 ひとみ
産 業 ・ 経 済 関 係	滋賀県商工会議所連合会 専務理事	廣瀬 年昭
	滋賀県商工会連合会 専務理事	石河 康久
学 識 経 験 者	龍谷大学 経営学部 教授	松永 敬子
県 関 係	総合企画部企画調整課 課長	小嶋 栄子
	総務部市町振興課 課長	中西 功
	文化スポーツ部スポーツ課 課長	西島 義典
	商工観光労働部観光振興局 副局長	高木 和彦

開催準備にかかる令和6年度の主な取組

1 競技運営

<競技別リハーサル大会>

競技別リハーサル大会を開催し、競技運営等の課題を検証する。

<障スポ競技会>

障スポ競技会場整備基本設計に基づき実施設計を実施する（バリアフリー対策など含む）ほか、リハーサル大会および本大会に向けた準備を進める。

<市町の運営費支援>

市町競技別リハーサル大会にかかる運営経費補助金の執行や、本大会の運営交付金に係るヒアリング等を実施する。

<競技役員等養成・編成等>

引き続き、各競技団体が実施する審判員等の競技役員の養成事業などに対する補助を行うとともに、競技運営の役員編成や補助員の確保に向けた関係機関との調整を行う。

2 広報・県民運動の推進

マスコットキャラクター・愛称・スローガン・イメージソングを活用した広報啓発を行う。開催1年前イベントをはじめとする啓発イベントの実施や屋外広告等の強化を図るほか、市町との連携、企業・団体の啓発協力を得ながら、県全域での盛り上げにつなげていく。

令和5年度に募集を開始した運営ボランティア、手話・要約筆記ボランティアについて、養成講座の開催、配置計画の検討を行うほか、障スポ選手団のサポートを行う選手団サポーターについて協力校との調整を行う。また、既存の清掃活動と連携したクリーンアップ運動や花いっぱい運動の試行栽培等、県民に参画いただきながら、大会に向けたおもてなし準備を進める。

3 宿泊・衛生対策

両大会の宿泊業務を円滑に推進するため、県と市町の配宿業務を共同で旅行業者に委託する合同配宿方式により、宿泊・輸送センターにおいて配宿システムの構築、仮配宿計画の作成、宿泊施設の実態調査、客室確保等を進める。

県内の限られた弁当調製施設を有効活用するため、県が弁当調製施設を一括で公募し、希望する市町へ振り分けを行う。また、式典弁当について、県民参加型のレシピコンテストを実施する他、競技会弁当については、県実行委員会の標準献立・弁当部会が考案した献立を市町にも活用いただけるよう準備を進める。

医療救護実施計画を策定するとともに、各会場の救護所に従事する医療従事者の必要人数を精査し、派遣について関係機関と調整を行う。

4 輸送・交通対策の推進

輸送実施計画の策定、駐車場や借上バス等の確保、会場地市町が行う競技会場地輸送準備に対する支援等を進めるとともに、公共交通機関を活用した効率的な輸送を検討する。また、宿泊・輸送センターを設置し、バス確保、県・市町への割付等の業務を行う。

5 式典・会場対策の推進

式典実施計画に基づき実施要項を作成し、コンパクトでありながらも、滋賀のオリジナリティーを出せるよう具体的な演出方法などの検討を進め、式典を構成する各演目の内容や実施方法等を定める。

開・閉会式会場等整備基本設計に基づき実施設計を実施し、ゾーニングや参加者の動線、仮設施設の配置、既存施設の利用、会場デザイン等の詳細について検討を進める。

6 募金・協賛

募金・協賛については、引き続きイベント等での募金活動や企業・団体等への寄附・協賛依頼を行うほか、大会マスコットキャラクターを用いた寄附付商品の販売や寄附・協賛募集の周知に向けた情報発信等の取組を進める。

<取組例>

- ・ イベントでの募金活動の実施
- ・ 募金箱募金の実施
- ・ 寄附付商品販売の実施
- ・ 企業・団体への訪問等による寄附・協賛依頼
- ・ 謝意表明の実施（感謝状贈呈等）
- ・ HP、SNS、インターネット広告等による寄附・協賛募集の周知

7 市町競技施設整備費補助

引き続き市町に対して、競技会場となる施設の整備に要する経費に対する補助を実施する。

8 レガシー2025 創出推進本部の設置

両大会後のレガシーに向けて、同年に開催される 2025 年日本国際博覧会を見据えて、知事を本部長とする「レガシー2025 創出推進本部」を R6.4.1 付で設置し、部局を横断した施策の立案、調整を行っている。

【参考情報】

● 経済波及効果（R5.2試算）	1,183.6億円
うち施設整備費(県・市町)	964.8億円
うち開催経費、競技力向上対策費等(県・市町)	174.9億円
うち大会関係者・観覧者等の消費支出	43.9億円
● ボランティア確保状況（R6.3時点）	
運営ボランティア	23.1%
手話要約筆記ボランティア	83.3%
● 大会認知度(R6.3時点)	国スポ44.9%、障スポ31.6%
● 宿泊施設確保状況(R6.3時点)	単日最大宿泊想定人数に対する確保率
	国スポ47.4%、障スポ60.0%
● バス確保状況（R6.3時点）	最大使用想定日(10/1) 50.0%



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ開催基本構想の進捗状況



1 開催基本構想とは

両大会の開催準備および大会運営の取組や両大会終了後のレガシー創出の方向性を取りまとめた「開催基本構想」を令和元年5月に策定した。両大会の一年延期に伴い、開催年にかかる記載などについて、令和3年3月に一部改正した。

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会
開催基本構想



湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ 2025
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

令和元年(2019年)5月 策定
令和3年(2021年)3月 一部改正
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会

【基本方針】

- ・ 次代を担う人育て
- ・ 活力に満ちた真心通い合う郷土づくり
- ・ 全国から滋賀を訪れる多くの人との交流
- ・ 県民総参加により、夢や感動、連帯感を共有
- ・ 県民がより一層身近にスポーツを楽しむことのできる環境づくり
- ・ 健康・体力の保持増進と競技力の向上
- ・ 障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加
- ・ ふるさと滋賀の活力をさらに高め、将来にわたり持続可能な共生社会の実現

【実施目標】

- 1 滋賀をスポーツで元気にする大会
- 2 滋賀の若者や女性が主体的に関わる大会
- 3 県民総参加でつくり、「滋賀の力」を伸ばす大会
- 4 滋賀の魅力を再発見し、地域の活性化やビジネスにつなげる大会
- 5 滋賀の子が、滋賀で育ち、滋賀で活躍する大会
- 6 滋賀の未来に負担を残さない大会
- 7 すべての人がともに支え合う滋賀を目指す大会

【取組】

7つの実施目標の実現に向けた取組
・ 開催準備の取組
・ 大会運営の取組

【レガシー】

全国から多くの人々が集う『スポーツの祭典』を通じて滋賀の新たな時代の創造につながる『レガシー』を創出し、次世代へ継承

2 開催基本構想の進行管理について

毎年度、開催基本構想の進行状況等について、把握し、検証する。進捗状況の把握結果は、大会専用ホームページで公表し、進捗状況や課題等を広く情報共有するとともに、今後の開催準備や大会運営の検討に活用するものとする。



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ開催基本構想の進捗状況



3 開催基本構想の進捗状況(概要)

令和5年度における主な取組の進捗状況は以下のとおり。

実施目標1 滋賀をスポーツで元気にする大会

- ・ メインスタジアムとなる平和堂HATOスタジアムが完成するなど、それぞれの整備計画等に基づき競技会場となるスポーツ施設の整備を推進し、スポーツ活動や健康づくり活動を行う環境づくりを進めている。
- ・ 両大会の運営補助を行う運営ボランティア等の募集を開始した。
- ・ 寄附協賛に対する感謝状贈呈式、紺綬褒状伝達式を実施し、ホームページに掲載したほか、平和堂HATOスタジアムに寄附者名頭彰銘板を設置した。
- ・ 障スポのオープン競技4競技(SOバドミントン、ゴールボール、スポーツウエルネス吹矢、卓球バレー)を決定した。

【平和堂HATOスタジアム】



【企業からの寄附協賛(感謝状贈呈式)】



実施目標2 滋賀の若者や女性が主体的に関わる大会

- ・ 両大会イメージソング「シャイン!!」を活用した「国スポ・障スポ教室」を小・中学校で実施した。
- ・ 子ども・若者世代の関心を高めるため、開催2年前イベント等において、スポーツ体験を実施した他、この世代が参加するイベントで広報啓発活動を行った。
- ・ SNSでは、マスコットキャラクターを積極的に活用し、ファミリー層に届くような情報発信に努めた。
- ・ 国民体育大会の本大会等に出場、帯同する育児期のアスリート・指導者7名に対し託児サービス料等補助を行い、優秀な選手・指導者確保に繋げた。

【国スポ・障スポ教室(豊郷小学校)】





～3 開催基本構想の進捗状況(概要)

実施目標3 県民総参加でつくり、「滋賀の力」を伸ばす大会

- ・ マスコットキャラクター、愛称・スローガンやイメージソングを積極的に活用し、鉄道駅を利用した大型広告、地域情報誌への広告掲載、ラジオCM、大会広報誌の発行、公式ポスターの制作等、両大会の広報に取り組んだ。・ 企業・団体等に寄付・協賛、広報啓発に協力いただき機運醸成につなげた。
- ・ 広報誌への募金協賛記事掲載やイベントでの募金グッズ販売等、寄附協賛の推進を図るとともに、企業協賛物品のお披露目を行った。
- ・ 式典の基本的な考え方の1つである県民総参加の観点から、各プログラムや演出内容を示す式典実施計画を策定した。
- ・ 花育て教室の開催、啓発用種子袋の配布、花育てガイドブックの配布などを通じて、花いっぱい運動を推進した。

【鉄道駅での大型広告】



【花育て教室（草津市笠縫こども園）】



実施目標4 滋賀の魅力を再発見し、地域の活性化やビジネスにつなげる大会

- ・ 大会文化プログラム実施要項を策定し、参加募集を開始した。
- ・ SNSキャンペーンでは、両大会の広報に併せて滋賀の特産品等を景品にするなど、滋賀の魅力を発信した。
- ・ 大会マスコットキャラクターを使用したポロシャツ、巻きずし、ストラップ、ぬいぐるみが販売された。

【666日前SNSキャンペーン】



【文化プログラムロゴマーク】



～3 開催基本構想の進捗状況(概要)

実施目標5 滋賀の子が、滋賀で育ち、滋賀で活躍する大会

- ・ 2023特別国体では、スポーツ特別指導員やふるさと選手など新たに本県選手として出場した選手の活躍などにより、前年の大会を上回る成績を収めることができた。
- ・ 開催2年前イベントをはじめ、イベント等でスポーツ体験を実施し、スポーツ実践の機会を設けた。

【イベントでのスポーツ体験】



実施目標6 滋賀の未来に負担を残さない大会

- ・ 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言」を行い、CO₂排出量の削減等、環境に配慮した大会とすることを宣言した。
- ・ 選手や式典参加者等の負担軽減を念頭に、コンパクトでありながらも中身の充実した式典の実施・運営に向けて式典実施計画を策定した。
- ・ ローイング競技艇の共同購入について、開催4県（佐賀、滋賀、青森、宮崎）で協定書を締結した。

【わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言】



実施目標7 すべての人がともに支え合う滋賀を目指す大会

- ・ 開催準備・大会運営に係る基本方針・計画等は国スポ・障スポ共通のものとして策定した。
- ・ 一体的な広報として、県内各種イベントにおいて、大会マスコットキャラクターの活用、のぼり旗等の掲示、広報グッズの配布、競技体験コーナーの設置等により、両大会の周知PRを行った。
- ・ 手話・要約筆記ボランティアの募集を開始したほか、県内の大学、短大、専門学校（23校）に選手団サポーター養成協力校を委嘱した。

【イメージソング「シャイン!!」PV】



【ボランティア募集ポスター】



4 レガシーの創出に向けて

開催基本構想において、7つの実施目標それぞれに、次世代に引き継ぎ、定着を目指すレガシーの創出について、方向性をまとめている。

実施目標	レガシー
① 滋賀をスポーツで元気にする大会	① 生涯にわたり健康でスポーツに取り組む滋賀の人々
② 滋賀の若者や女性が主体的に関わる大会	② スポーツで輝く滋賀の子ども・若者・女性
③ 県民総参加でつくり、「滋賀の力」を伸ばす大会	③ 連携・協働で伸ばされた「滋賀の力」
④ 滋賀の魅力を再発見し、地域の活性化やビジネスにつなげる大会	④ 魅力と活力にあふれる滋賀
⑤ 滋賀の子が、滋賀で育ち、滋賀で活躍する大会	⑤ 全国や世界の舞台で活躍する滋賀のアスリート
⑥ 滋賀の未来に負担を残さない大会	⑥ 持続可能な滋賀への貢献
⑦ すべての人々がともに支え合う滋賀を目指す大会	⑦ 人がともに支え合う滋賀

レガシー2025創出推進本部の立ち上げ

上記の実現に向けて、部局を横断した施策の立案・調整を目的とした「レガシー2025創出推進本部」を令和6年4月に立ち上げた。

わたSHIGA輝く国スポ・障スポは、年齢、性別、障害のあるなしを問わず、すべての人が様々な場面で主役として光り輝く大会を目指している。両大会には多数の方々が県内外問わず参加され、滋賀県の魅力を全国に発信する大きなチャンスである。また、同じく2025年に開催される、大阪・関西万博のテーマとして、「いのち輝く未来社会のデザイン」があり、「輝く」という言葉を共通項にして、推進本部において、県民一人ひとりが輝く未来の滋賀に向けて施策を検討していきたい。

2025年を滋賀県にとって“輝く”豊かな未来をともにつくるためのレガシー実現に向けた節目の年に



- 1 滋賀・びわ湖からSDGsへとつながるMLGs、その出発点である「一人ひとりの行動の変化」に着目し、両大会における様々な場面で、環境に配慮した大会を目指します
- 2 CO₂排出量削減に取り組むことを参加者で共有し、「自分ごと化」して身近な行動につながる大会を目指します
- 3 得られた成果を県民・企業・市町等と共有することで、スポーツを通じたサステナブルな社会に繋がる大会を目指します



令和5年(2023年)7月28日

わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会








湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ 2025
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

会長 三日月 大造

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言」の取組

MLGs項目	大会局の主な取組(予定含む)
1. 清らかさ感じる水	
2. 豊かな魚介類	滋賀の恵みを活かした弁当、ブース出展(湖魚)の呼びかけ
3. 多様な生き物	ブース出展(生物多様性関連)の呼びかけ
4. 水辺も湖底も美し	クリーンアップ運動、ごみの適切な分別、ブース出展での簡易包装の呼びかけ
5. 水源の森	表彰状の木製額縁に琵琶湖材活用、ブース出展(県産材商品、木製ボトル)の呼びかけ
6. 森川里湖海のつながり	ブース出展(活動事例展示)の呼びかけ
7. 温室効果ガス削減	<p>【開・閉会式、競技会】 国スポの総合プログラム・競技別プログラムに係る電子化、県が運営する競技会での来場者へ配布するショッパー袋にライスレジンを採用、仮設物等は可能な限りレンタル品を使用し、廃棄物を削減、看板類は引継備品を優先的に使用し、新規製作を抑制、ごみの適切な分別、開・閉会式会場でのウォーターサーバー設置</p> <p>【服飾・広報】 再生素材100%のスタッフ服飾、エコ素材を採用した手づくりのぼり旗</p> <p>【輸送・交通】 公共交通機関の活用、アイドリングストップの促進</p>

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言」の取組

MLGs項目	大会局の主な取組(予定含む)
 7. 温室効果ガス削減	【宿泊・衛生】 宿泊者へアメニティ持参の呼びかけ、食品ロス削減の視点を取り入れた標準献立、未使用の医事衛生用品収集(庁内関係課への呼びかけ)、リサイクル素材を使用した弁当容器の使用、ストローの削減(カート缶)等の検討 【総会・常任委員会】 会議資料の電子化推進による紙資料削減
 8. 耐性のある暮らし	競技会場のハザードマップ確認、スポーツ視点の気候変動問題啓発事業の検討
 9. 産業に地域資源を	炬火関連用具、式典衣装、ブース出展(地場産品)の呼びかけ、寄附者銘板(信楽製陶板)、表彰状にヨシ紙、額内布に近江上布の活用、額縁表面への上丹生木彫
 10. 流域が学びの場	『学習BOOK』の配布
 11. 琵琶湖を楽しみ愛する	式典・演技での演出、開・閉会式における魅力発信動画の作成、文化プログラムでの湖上スポーツの紹介
 12. 水と祈りと暮らし	シガリズムとのタイアップ(冊子、ウェブ)、文化プログラムでの湖国文化の案内、ブース出展(地酒・観光案内)の呼びかけ
 13. つながり目標達成	式典出演者の多様性、おもてなし演技での演出(選手へのエール)、運営スタッフに対する心のバリアフリー研修
その他	市町のMLGs取組推進を財政的に支援



「わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言」の取組

大会後の目指す姿(ゴール案)

滋賀県国スポ・障スポ大会局のみならず、県内市町や企業も一緒になり、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」を契機に、環境に配慮した取組が広がり、一人ひとりの意識・行動変容につながる姿

結果の取りまとめ(予定)

- ・わたSHIGA輝く国スポ・障スポの大会報告書
- ・MLGs評価報告書「シン・びわ湖なう2025」への掲載(予定)
- ・(公財)日本スポーツ協会「スポーツと環境」レポート など

実行委員会一丸となって、環境に配慮した大会の開催に向けて一緒に取り組んで行きましょう！



わた SHIGA 輝く国スポ 正式競技 競技会場名の変更について

競技名	会場地 市町名	競技会場名	
		(変更前)	(変更後)
サッカー	東近江市	京セラ株式会社滋賀 <u>八日市</u> 工場総合グラウンド	京セラ株式会社滋賀 <u>東近江</u> 工場総合グラウンド

(変更理由)

競技会場の施設名称が変更されたため。

わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ
 主管団体名の変更について

実施競技名	主管団体名		会場地 市町名	競技会場名
	(変更前)	(変更後)		
還暦軟式野球	滋賀県還暦野球連盟	一般社団法人日本生涯還 暦野球協会 滋賀県支部 滋賀県還暦野球連盟	守山市	守山市民球場 守山市民運動公園 市民スポーツ広場

(変更理由)

申請時は省略された団体名となっていたため、正式名称に変更する。

第 79 回国民スポーツ大会(わたSHIGA輝く国スポ) 入場料金(案)について

日本スポーツ協会の「国民スポーツ大会開催基準要項 34 入場券、入場料」の規定に基づき、第 79 回国民スポーツ大会(わたSHIGA輝く国スポ)については、次のとおりとする。

1. 総合開会式・総合閉会式

対象		入場料金
国民スポーツ大会	開会式	大人： 1,000 円 高校生以下： 無料 (※高校生以下または 18 歳以下は無料とする。)
	閉会式	無料

2. 競技会

対象	入場料金
高等学校野球(硬式)	大人： 1,000 円 高校生以下： 500 円 車いす利用者： 500円 (介助者1名まで無料)

3. 今後のスケジュール

令和6年12月 国民スポーツ大会委員会【協議】

【参考】

(1)入場料金に関する規定

○「国民スポーツ大会開催基準要項」(日本スポーツ協会)に次のとおり規定

34 入場券、入場料

- (1)入場券は、主催者が発行する。
- (2)入場料金額は、開催県実行委員会が日本スポーツ協会と協議して決める。
- (3)入場料は、開催県実行委員会が徴収し、大会運営の経費及びスポーツの推進に必要な経費に充当する。
- (4)公開競技における入場券、入場料については、当該中央競技団体が日本スポーツ協会と協議の上、発行、徴収することができる。

(2)先催県の状況

開催年	開催県	スタンド区分	料金	
			開会式	閉会式
H29 (第72回)	愛媛	全席	大人:1,000円 (小人:500円)	無料
H30 (第73回)	福井	全席	大人:1,000円 (小人:500円)	無料
R1 (第74回)	茨城	全席	大人:1,000円 (小人:500円)	無料
R4 (第77回)	栃木	全席	大人:1,000円 (小人:500円)	無料
R5 (特別)	鹿児島	全席	大人:1,000円 (高校生:500円)	無料
R6 (第78回)	佐賀	全席	大人:1,000円 (高校生以下:無料)	無料

※ R3(第76回)三重県 中止(全席無料)

わた SHIGA 輝く国スポ デモンストレーションスポーツ競技会場変更（案）

実施競技	主管団体名	市名	競技会場	
			(変更前)	(変更後)
ユニホック	滋賀県ホッケー協会	米原市	OSPホッケースタジアム (滋賀県立伊吹運動場) 米原市伊吹第1グラウンド	OSPホッケースタジアム (滋賀県立伊吹運動場)

【変更理由】

当初、隣接する2会場で開催する計画をしていたが、変更後の施設でコート数を増やすことにより対応できるため、当該競技会場を1会場とするもの。

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ開催基本構想 進捗状況

資料1(参考資料)

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
第1節 『実施目標1 滋賀をスポーツで元気にする大会』に向けた取組					
1		スポーツへの興味・関心が高まるよう県民に観戦を呼びかける。	・開催競技および競技会場を大会専用ホームページや大会広報誌に掲載するほか、競技会場地市町について、各種イベント・大会広報誌で周知した。 ・県内プロスポーツチームの公式戦の冠ゲームなどの連携企画を実施し、スポーツへの興味関心を高めた。	○: 概ね予定どおり	・引き続きホームページやイベント等で会場地を周知するほか、大会広報誌により、競技会場地や競技の魅力等の紹介を行う。また、今年度から観戦ガイドブックの制作に向けて準備を進める予定。
2		「マイスポーツ」を見つけ、スポーツの「する」「みる」「支える」取組につながるよう情報発信を行う。	・第6期生で「マイスポーツを探せ!!」をテーマに調査研究を行い、提言『マイスポーツを見つける6カ条』をとりまとめた。 ・第4期生の提言を実践に移す取組として、両大会イメージソング「シャイン!!」を活用した国スポ・障スポに関する授業を小・中学校で行う「国スポ・障スポ教室」を実施した。	◎: 予定どおり	・引き続き、これまでの子どもたちからの提言を開催準備に有効に役立て、スポーツの多様な関わり方について考えるきっかけづくりを行う。 ・3年目となる「国スポ・障スポ教室」を充実した取り組みとする。
3	1 県民のスポーツ活動の促進 (1) 県民が生涯にわたりスポーツ活動を行うきっかけづくり	国民スポーツ大会のデモスポや、両大会の関連イベントでのスポーツ体験の機会を設け、参加を呼びかける。	(デモスポ) ・第2回競技運営担当者会議を開催し、年齢、性別、地域、障害のあるなしを問わず、「誰もが参加できるデモスポ」となるよう、体験会等の取組事例の紹介や障害者スポーツ協会が開催している「スペシャルスポーツの広場」でのブース出展を呼びかけた。	○: 概ね予定どおり	・紹介リーフレットを作成し、デモスポについて広く周知する。 ・参加申込ガイドブックを作成し、県民に広く参加を呼びかける。
			(イベントでのスポーツ体験) ・令和元年に実施した開催内定イベントや令和5年に実施した開催2年前イベント等で、両大会のPR活動と併せて、スポーツ体験(ローイングエルゴメーター、バスケットボール、スリースマイル、ストラックアウト、ポッチャ、モルック、インディアカ、ユニホック、eスポーツ)を実施した。	◎: 予定どおり	・引き続きイベントにおいてスポーツ体験を実施する。 ・引き続きホームページやSNS等でイベントへの参加を呼び掛ける。
4		障スポのオープン競技について、湖上スポーツやパラリンピックホストタウン関連競技など、滋賀の特長を活かした実施種目を検討する。	(オープン競技) ・オープン競技4競技(SOバドミントン、ゴールボール、スポーツウエルネス吹矢、卓球バレー)について、日本パラスポーツ協会および文部科学省と協議の上、実施決定した。	◎: 予定どおり	・実施することが決定したオープン競技について、競技団体と準備を進める。
5	(2) 障害のある人の参加機会の拡大	・障害者スポーツの体験機会を設け、障害のある人のスポーツ活動への参加機会の拡大を図る。 ・障害者スポーツの観戦機会に係る情報提供等を行う。	・令和元年実施の開催内定イベントや令和5年実施の開催2年前イベントで誰もが楽しむことが可能なスポーツ体験(ポッチャ、eスポーツ)を実施した。 ・大会広報誌を発行し、障スポ競技とその競技の魅力を紹介した。	○: 概ね予定どおり	・引き続きイベントにおいてスポーツ体験を実施する。 ・引き続きホームページやイベント等で会場地を周知するほか、大会広報誌等により、競技会場地や競技の魅力等の紹介を行うなど、広報する。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
6	(3) スポーツの持つ多様な価値の共有	<ul style="list-style-type: none"> 実践で得られる感動や達成感、心身の健康の保持・増進等をはじめとするスポーツの多様な価値を発信する。 スポーツボランティア活動など、現場でスポーツが持つ多様な価値に触れることができる機会を県民に提供する。 	<p>(イベントでのスポーツ体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントでスポーツ体験の機会を設け、スポーツ実践の機会を設けた。 <p>(運営ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月から運営ボランティアの募集を開始し、県内外問わず応募がある。 <p>(手話・要約筆記ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月から手話・要約筆記ボランティアの募集を開始した。 ボランティア養成研修テキストを作成した。 リーダーの選出、配置の検討を進め、リーダー養成会議を実施した。 令和6年に実施予定のボランティア養成研修に向けた検討・準備を進めた。 <p>(選手団サポーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年7月から9月にかけて県内大学、専門学校、短期大学25校を訪問し、協力校調査では25校に協力いただけのこととなった。 選手団サポーター養成研修テキストを作成した。 令和6年2月に養成協力校連絡会議を開催した。 	<p>◎: 予定どおり</p> <p>◎: 予定どおり</p> <p>◎: 予定どおり</p>	<p>(イベントでのスポーツ体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続きイベントにおいてスポーツ体験を実施する。 <p>引き続き多くの方の応募があるように、大学、県内企業等への依頼を行う必要がある。令和6年度には研修を開催予定。</p> <p>(手話・要約筆記ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア応募者に対し、ボランティア養成講座研修や活動希望調査を実施する。 ボランティアの配置を検討する。 業務マニュアルの内容について検討する。 <p>(選手団サポーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 選手団サポーター養成必修講座の内容検討 7月～8月養成協力校照会、第二回養成協力校連絡会議開催 選手団サポーター配置計画検討 養成必修講座開講(秋)
7		企業のイメージや価値の向上につながるよう、寄附に対する表彰や情報発信を行う。	寄附に対する感謝状贈呈式、紺綬褒状伝達式を実施し、ホームページに掲載したほか、報道機関への資料提供を実施した。	◎: 予定どおり	引き続き感謝状贈呈式の実施や各種媒体等で情報発信する。 令和6年度に寄附者名顕彰銘板を増設し、設置する。
8	(4) シンボルスポーツ等の創出・定着	開催競技が滋賀のシンボルスポーツとなるよう、情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> 開催競技および競技会場を大会専用ホームページや大会広報誌、リーフレットに掲載した。 両大会の情報をSNSで発信した。 競技会場地市町について、各種イベントや大会広報誌で周知した。 	○: 概ね予定どおり	引き続きホームページやSNS、イベント等で会場を周知するほか、大会広報誌等により、競技会場や競技の魅力等の紹介を行うなどの広報活動を展開する。今年度から観戦ガイドブックの制作に向けて準備を進める予定。
9	2 健康づくり活動の促進	スポーツを通じた健康・体力づくりに関する情報発信や普及啓発を行う。	イベントで大会PR活動と併せてスポーツ体験を実施し、健康・体力づくりの重要性についても周知した。	○: 概ね予定どおり	引き続きスポーツ体験を行うほか、健康・体力づくりの重要性について情報発信を行う。
10	3 スポーツ・健康づくり環境の整備	施設の整備を通じて、県民が将来にわたりスポーツ活動や健康づくり活動を行う環境づくりを進める。	<p>(市町立施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各市町の施設整備計画等に基づき競技会場となるスポーツ施設の整備を推進し、スポーツ活動や健康づくり活動を行う環境づくりを進めている。 <p>(県立施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの整備計画等に基づき競技会場となるスポーツ施設の整備を推進し、スポーツ活動や健康づくり活動を行う環境づくりを進めている。 	<p>○: 概ね予定どおり</p> <p>○: 概ね予定どおり</p>	<p>引き続き競技会場となるスポーツ施設の整備を推進する必要がある。</p> <p>平和堂HATOスタジアムや滋賀ダイハツアリーナなど競技会場となる新しい施設が概ね完成し、供用を開始している。引き続き柳が崎ヨットハーバー艇庫等の工事やバリアフリー対応等の整備を推進していく。</p>

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
第2節 『実施目標2 滋賀の若者や女性が主体的に関わる大会』に向けた取組					
11	1 子ども・若者の大会準備・運営への参画	「子ども・若者参画特別委員会」(ジュニア・ユースチーム)において、開催準備やスポーツ推進、競技普及等の調査・研究を行い、子どもや若者の柔軟な視点や発想による提言等を両大会の開催準備および大会運営の取組に反映する。	・ジュニア・ユースチームの第1期生は「湖上スポーツ」、第2期生は「スポーツボランティア」、第3期生は「パラスポーツ(障害者スポーツ)」、第4期生は「大会のPR大作戦」、第5期生は「スポーツの魅力発見!!」、第6期生は「マイスポーツを探せ!!」をテーマに調査研究活動を実施した。令和2年度と令和3年度は、国スポ・障スポフレンドを対象に「魅力的な広報グッズ」、「滋賀らしいPRの方法」をテーマにアンケート調査を実施した。令和4年度から、イメージソング「シャイン!!」を活用した「国スポ・障スポ教室」を令和6年度まで実施する。	◎: 予定どおり	・引き続き、これまでの子どもたちからの提言を開催準備に有効に役立てるため、大会の広報等の場面で実践に移す取組を行う。(令和6年度まで引き続き実施予定)。
12		子ども・若者世代の関心を高めるため、子ども・若者に分かりやすく楽しい訴求力のある広報・情報発信を行う。	(広報における子ども・若者向けの対応) ・イベントで大会PR活動と併せてスポーツ体験を実施し、体験型の情報発信を行った。 ・子ども・若者世代の関心を高めるため、開催2年前イベントをファミリー層に人気のイベントと連携して開催した。 ・SNSではマスコットキャラクターを積極的に活用し、ファミリー層に届く情報発信に努めた。	○: 概ね予定どおり	・引き続きイベントで大会PR活動と併せてスポーツ体験を実施し、子ども・若者世代の両大会への関心を高めていく必要がある。 ・大会マスコットキャラクター「キャッフィー」「チャッフィー」を積極的に活用し、子ども・若者世代に訴求するよう広報活動を展開する必要がある。
13		各専門委員会において、女性委員の参画機会を確保し、開催準備や運営に係るあらゆる場面で、女性の視点や意思を反映する。	・各専門委員会に、女性委員に就任いただいている。	○: 概ね予定どおり	・引き続き、女性委員に就任いただき、女性の視点や意思を反映する。
14	2 女性の大会準備・運営への参画および大会への参加の促進	女性の指導者育成に向けて、競技活動継続の支援や指導者育成に向けた研修等に取り組む。	・希望する競技団体に産婦人科医を派遣し、女性アスリート・指導者等を対象とした講習会を実施した。 ・国民体育大会の本大会等に出場、帯同する育児期のアスリート・指導者7名に対し託児サービス料等補助を行い、優秀な選手・指導者確保に繋げた。 ・女性アスリート特有の課題(月経課題等)を抱える選手7名に対し、受診にかかる費用・薬代等を補助した。	○: 概ね予定どおり	・当事業の認知度を上げるための啓発活動に取り組み、選手・指導者のニーズを顕在化させることで、より多くのアスリート・指導者に対する支援の機会の確保につなげていく。 ・令和7年度のわたSHIGA輝く国スポ・障スポ時では、女性監督数の目標値を22人と設定している。優秀な指導者を男女問わず育成しつつ、優秀な女性指導者が強化活動に集中して取り組めるよう、育児支援、特有課題対策支援の充実を図る。
15		女性の両大会への参加意欲や関心を高めるため、女性に訴求力のある情報発信・広報を行う。	・広報誌は女性に人気のあるフリーペーパーを活用して、全戸配布(一部エリアを除く)により情報発信を行った。 ・女性にも両大会に興味関心をお持ちいただけるよう、女性も参加しやすい内容のSNSキャンペーンを実施した。	◎: 予定どおり	・広報誌においては女性はもとより、高齢者、障害者誰でも情報を入手できるよう工夫に取組む。 ・大会マスコットキャラクター「キャッフィー」「チャッフィー」を積極的に活用するなど、女性の目にも訴求できる情報発信を行っていく。
16		デモスポや両大会の関連イベント等に、女性が参加しやすいものや子育て中の女性が親子で参加できるものを設けるなど、両大会への女性の参加に配慮する。	・開催2年前イベントでは親子で参加できる競技体験等を数多く設け、ファミリー層への大会周知を図った。 ・SNSにおいては大会マスコットキャラクターを積極的に活用し、女性の目につくような情報発信を行った。	○: 概ね予定どおり	・女性の利用が多い施設を中心に広報啓発活動を行う。
			(デモスポ) ・第2回競技運営担当者会議を開催し、年齢、性別、地域、障害のあるなしを問わず、「誰もが参加できるデモスポ」となるよう、体験会等の取組事例の紹介を行った。	○: 概ね予定どおり	・引き続き、先催県の事例等を研究しながら、「誰もが参加できるデモスポ」となるよう、会場地市町と主管団体に対して参加者の幅を広げる工夫をしてもらえるよう提案・依頼していく。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
第3節 『実施目標3 県民総参加でつくり、「滋賀の力」を伸ばす大会』に向けた取組					
17	1 多様な主体との連携・協働	県民が両大会開催を実感し、参加・協力できるよう、開催競技(正式競技、特別競技、公開競技、デモスポ、全国障害者スポーツ大会正式競技、オープン競技)を県内の様々な地域で開催する。	<p>(国スポ正式競技開催地決定の状況記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正式競技37競技、特別競技1競技、全38競技の会場地が決定。 県内16市町、県外3市町で競技会を開催。 競技運営担当者会議を開催し、会場地市町、県競技団体と情報共有を図った。 <p>(国スポ公開競技、デモスポ開催地決定の状況記載)</p> <p>(公開競技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開競技7競技の会場地が決定。 県内7市で競技会を開催。 <p>(デモスポ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に2競技の追加申請を受け、ミックスバレーボールが8月に開催された国スポ委員会で開催決定、ウォーキングフットボールが3月の県常任委員会で開催内定した。 ウォーキングフットボールを含めると、県内14市町において26競技を実施する。 <p>(障スポ開催地の状況記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正式競技14競技の会場地市町が決定。 オープン競技4競技が決定(SOバドミントン、ゴールボール、スポーツウエルネス吹矢、卓球バレー)。 県内12市4町を会場地市町として競技会を開催する。 	◎: 予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> 競技会場等の変更が生じた場合は、その都度必要な変更手続きを行う。 各競技会の準備・運営が円滑に進むよう、引き続き競技運営担当者会議等の場で会場地市町、県競技団体と情報共有を図るとともに、必要な調査を行う。 <p>(公開競技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開競技の準備が円滑に進むよう、引き続き競技運営担当者会議等の場で会場地市、競技団体と情報共有等を図るとともに、必要な調査を行う。 <p>(デモスポ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーキングフットボールの追加について、6月開催予定の国スポ委員会に協議事項として提出する。 デモスポの準備が円滑に進むよう、引き続き競技運営担当者会議等の場で会場地市町、主管団体と情報共有等を図るとともに、必要な調査を行う。 紹介リーフレット、参加申込ガイドブックを作成し、デモスポについて広く周知し参加者を募集する。
18	スポーツボランティア活動や県民運動、式典前演技、募金など、すべての県民が何らかの形で両大会に参加・協力できる機会を創出する。		<p>(県民運動、ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月から運営ボランティア、手話・要約筆記ボランティアの募集を開始し、県内外問わず応募がある。 児童生徒対象のポスターコンクールやイラストコンクールを実施した。 花育て教室の開催、啓発用種子袋の配布、花育てガイドブックの配布などを通じて、花いっぱい運動を推進した。 イメージソングを活用して、両大会のPRを行った。 <p>(個人向け募金活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 寄附募集について、総合事務支援システムのログオン広報、大会広報誌への記事掲載、HPにより情報発信した。 イベント等において、募金活動を行った。 募金グッズ販売について、実行委員会において県庁・イベント・郵送での直接販売を行った。 <p>(式典)</p> <ul style="list-style-type: none"> 式典の基本的な考え方の1つである県民総参加の観点から、各プログラムや演出内容を示す式典実施計画を策定した。 	◎: 予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> 運営ボランティアの研修会を開催する。 花いっぱい運動を実施し、小・中学校や幼稚園等に資材を提供し花を育ててもらう。 児童生徒対象のポスターコンクールやイラストコンクールを実施する。 大会オリジナル軍手の配布等を通じ、クリーンアップ運動を推進する。 イメージソングの普及を図る。 <p>○: 概ね予定どおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、より多くの方に寄附募集していることを知っていただくために、HPやSNSを活用し情報発信を行う。また、募金グッズについて、委託販売店を増やすとともに、イベント等での直接販売を行う。 <p>◎: 予定どおり</p> <ul style="list-style-type: none"> (式典) 各プログラムについて、演出内容や出演者等の具体案を検討し、式典実施要項の作成に着手していく。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
19	1 多様な主体との連携・協働	広報活動と連携して寄附等の募集を様々な手法で推進するほか、企業協賛制度を構築する。	<p>(寄附の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントでの広報の際に、併せて募金グッズの販売を行った。 ・広報誌のスマートフォン(ウェブ)版、音声版および点字版で、募金グッズの紹介を行った。 ・寄附に対する感謝状贈呈式や銘板の設置を実施し、大会HP・SNS等に掲載した。 	◎: 予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな募金グッズを作成する。 ・SNS、HP等を通じて、募金を呼び掛ける。 ・新たなスポーツイベント等とのタイアップを検討する。
			<p>(企業協賛)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内経済団体等の会合の場を活用した呼びかけや個別企業への訪問等による依頼を実施した。 ・企業協賛に対する感謝状贈呈式や協賛物品のお披露目を行った。 ・特典として、大会HPをはじめ広報誌等への企業名やロゴの掲載などを行った。 	◎: 予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、県庁内関係所属と連携し、多くの企業が参画する経済団体・各種団体の会合の場を活用した呼びかけ、企業訪問による依頼を行う。
20	2 スポーツボランティア活動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大会運営ボランティア、手話・要約筆記などを行う情報支援ボランティア、選手団と行動をともにする選手団サポートボランティアなど両大会における多様なボランティアの養成・確保を図る。 	<p>(運営ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月から運営ボランティアの募集を開始し、県内外問わず応募がある。 	◎: 予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き多くの方の応募があるように、大学、県内企業等への依頼を行う必要がある。令和6年度には研修を開催予定。
			<p>(手話・要約筆記ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年10月から手話・要約筆記ボランティアの募集を開始した。 ・ボランティア養成研修テキストを作成した。 ・リーダーの選出、配置の検討を進め、リーダー養成会議を実施した。 ・令和6年に実施予定のボランティア養成研修に向けた検討・準備を進めた。 <p>(選手団サポーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年7月から9月にかけて県内大学、専門学校、短期大学25校を訪問し、協力校調査では25校に協力いただけのこととなった。 ・選手団サポーター養成研修テキストを作成した。 ・令和6年2月に養成協力校連絡会議を開催した。 	◎: 予定どおり	<p>(手話・要約筆記ボランティア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア応募者に対し、ボランティア養成講座研修や活動希望調査を実施する。 ・ボランティアの配置を検討する。 ・業務マニュアルの内容について検討する。 <p>(選手団サポーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手団サポーター養成必修講座の内容検討 ・7月～8月養成協力校照会、第二回養成協力校連絡会議開催 ・選手団サポーター配置計画検討 ・養成必修講座開講(秋)

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
第4節 『実施目標4 滋賀の魅力を再発見し、地域の活性化やビジネスにつなげる大会』に向けた取組					
27		県民運動の取組により、来県者を温かく迎えるほか、地域・学校単位等で滋賀県選手はもとより、県外の選手も応援する。	・おもてなし広場、手づくりのぼり旗の検討を開始し、来県者の方々を温かく迎える準備を行った。	○: 概ね予定どおり	・おもてなし広場基本計画を作成する。 ・今後、市町実行(準備)委員会、県教委、関係市町教委、校長会等に概要を説明し理解を求め、連携していく進めていく。
28	1 おもてなしと滋賀の魅力発信 (1)心のこもった「おもてなし」		(広報関係) ・先催県で実施しているおもてなし等を視察し、情報収集に努めた。	○: 概ね予定どおり	・観戦ガイドブック等について、内容や情報提供方法の検討を行う。
		ニーズにあったパンフレットの提供、分かりやすい案内表示、行き届いたガイドなど、参加者が「来てよかった」と思える大会運営を目指す。	(ボランティア) ・令和6年度の実施に向けて、運営ボランティアの研修についての検討を行った。	○: 概ね予定どおり	(ボランティア) ・令和6年度に、運営ボランティア参加者を対象とした研修会を実施予定。
			(会場関係:開・閉会式会場) ・開・閉会式会場等整備基本設計(業務委託)において、サインデザインの検討や総合案内所の配置計画を行った。	○: 概ね予定どおり	・令和6年度は開・閉会式会場等整備実施設計(業務委託)において、サイン看板のデザインや配置場所の詳細設計を行う。
			(会場関係:障スポ会場) 競技会場基本設計において、選手等にとって快適な会場となるように関係者の意見を参考にした上で作成した。	○: 概ね予定どおり	・今後の競技会場実施設計等の検討の中で、関係機関等と連携し、取り組みを進める必要がある。
29		各会場や宿泊場所等で来県者に対し、滋賀の食材を取り入れた郷土料理、特産品などを活用した地産地消によるおもてなしを行う。	・令和6年度に作成する標準献立に向けて、滋賀県栄養士会等と協議を重ねた。 ・令和6年度に作成する標準献立および昼食弁当の検討を進めるため、標準献立・弁当部会を設置した。	◎: 予定どおり	・滋賀県栄養士会と標準献立作成業務委託契約を行い、標準献立を作成する。 ・標準献立・弁当部会において、標準献立や昼食弁当メニューの検討を進める。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
30		豊かな自然や歴史、文化、芸術、祭り、伝統芸能、特産品、滋賀ならではのスポーツ環境(湖上スポーツなど)、滋賀の魅力を情報発信する。	〈文化プログラム〉 障スポ専門委員会において、大会文化プログラム実施要項改正案をはかり、総務企画専門委員会にて要項策定。また、9月より参加募集を開始した。	○: 概ね予定どおり	令和7年1月からの文化プログラム開催に向けてリーフレットや大会ホームページ等を活用しながら情報発信する。
			・SNSキャンペーンでは、両大会の広報に併せて滋賀の特産品等を景品とするなどして、滋賀の魅力を発信した。	○: 概ね予定どおり	・引き続き大会広報に併せて、滋賀のスポーツ環境、特産品など、滋賀の魅力を発信する。 ・発信にあたってはホームページによる方法について強化する。
31	(2) 滋賀の様々な魅力の発信	県民一人ひとりが自ら滋賀の魅力を再発見し、多くの来県者に紹介することができるよう、おもてなしの機運を盛り上げる。	〈文化プログラム〉 障スポ専門委員会において、大会文化プログラム実施要項改正案をはかり、総務企画専門委員会にて要項策定。また、9月より参加募集を開始した。	○: 概ね予定どおり	・令和7年1月からの文化プログラム開催に向けてリーフレットや大会ホームページ等を活用しながら情報発信する。
			(ボランティア) ・運営ボランティアの研修について検討を行い、令和6年度に開催予定。	○: 概ね予定どおり	(ボランティア) ・令和6年度に、運営ボランティア参加者を対象とした研修会を実施予定。
32		選手団の昼食の共通食材や宿泊場所・会場等における食事において、滋賀の食材を使用するなど地産地消に努める。	・令和6年度に作成する標準献立および昼食弁当の検討を進めるため、標準献立・弁当部会を設置した。	◎: 予定どおり	・滋賀県栄養士会と標準献立作成業務委託契約を行い、標準献立を作成する。 ・標準献立・弁当部会において、標準献立や昼食弁当メニューの検討を進める。
33		優秀な成績を収めた選手やチームへの副賞の授与など、注目を集める場面での滋賀の特産品の使用に努める。	両大会において選手に授与されるメダル等に滋賀の特産品が使用できないか情報収集を行った。	○: 概ね予定どおり	・両大会において選手に授与されるメダルや、大会参加を記念する品物について滋賀の特産品を使用できるよう具体的に取り組む。
34	2 「大会文化プログラム」の展開	滋賀ならではの文化・芸術に係る展示会や音楽会、郷土の祭り、伝統芸能等に加え、スポーツ文化の発信に係る事業やeスポーツなどの「大会文化プログラム」を展開し、滋賀の文化、芸術等の魅力を発信する。	障スポ専門委員会において、大会文化プログラム実施要項改正案をはかり、総務企画専門委員会にて要項策定。また、9月より参加募集を開始した。	○: 概ね予定どおり	・令和7年1月からの文化プログラム開催に向けてリーフレットや大会ホームページ等を活用しながら情報発信する。
35	3 スポーツビジネスの展開等	来県する人々に向けて、自然環境を活かしたスポーツツーリズムや、大会文化プログラムに基づく文化事業や歴史・文化等を活かした文化ツーリズムのほか、農村環境や食材・食文化を活かしたツーリズムなどを提案する。	障スポ専門委員会において、大会文化プログラム実施要項改正案をはかり、総務企画専門委員会にて要項策定。また、9月より参加募集を開始した。	○: 概ね予定どおり	・令和7年1月からの文化プログラム開催に向けてリーフレットや大会ホームページ等を活用しながらツーリズムなども含めて情報発信する。
36		愛称・スローガンや大会マスコットキャラクター等を活用した商品開発を積極的に提案する。	・大会マスコットキャラクターを使用したポロシャツ、巻きずし、ストラップ、ぬいぐるみが販売された。	○: 概ね予定どおり	・引き続きホームページ等で大会マスコットキャラクター等の使用を呼びかける情報発信を行う。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
第5節 『実施目標5 滋賀の子が、滋賀で育ち、滋賀で活躍する大会』に向けた取組					
37	1 競技力の向上	<p>競技力の向上を図り、滋賀県選手が活躍し、第79回国民スポーツ大会で天皇杯を獲得することを目指すとともに、両大会で活躍した選手が、両大会を契機として、さらに他の全国大会やオリンピック・パラリンピックをはじめとする国際大会等で活躍することを目指す。</p> <p>両大会で活躍した選手が指導者として次の世代を育てるなど、滋賀のスポーツの発展を支える好循環の形成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別国体では、男女総合17位となり、目標としていた10位以内には届かなかったものの、前回大会を上回る成績を収めることができた。 ・スポーツ特別指導員やふるさと選手など新たに本県選手として出場した選手の活躍により、成年種別や3倍競技で前回大会を大きく上回る競技得点を獲得した。 ・前回大会を4競技上回る22競技が競技得点を上げたこと、高校1年生となった2025ターゲットエイジの入賞など、これまでの強化の成果が表れた。 	○: 概ね予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> ・第79回国スポでの総合優勝のためには、特別国体での総合得点に加え1,300点の得点が必要であり、残された1年半の間に得点配分の高い団体競技・種目について本国体入賞レベルまで引き上げる対策に力を入れていく。 ・強化事業の質・量の充実を図り、開催年の出場想定選手を集中的に強化することで、上位県を超えて入賞・得点できる実力を養っていく。 ・第79回国スポでの総合優勝のために各競技に必要な得点を試算し、「獲得必須得点」として各競技団体に明示するとともに、国スポ開催までの間、質・量を伴った強化事業を切れ目なく実施できるよう、各競技団体で作成したロードマップ(2年カレンダー)に基づく事業の推進を図る。
38		<p>競技力の維持・向上の環境づくりに向けて、県民のスポーツに対する意欲や関心を喚起する情報発信や普及啓発を行います。</p>	<p>(イベントでのスポーツ体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年に実施した開催内定イベントや令和5年に実施した開催2年前イベント等で、両大会のPR活動と併せて、スポーツ体験(ローイングエルゴメーター、バスケットボール、スリースマイル、ストラックアウト、ボッチャ、モルック、インディアカ、ユニホック、eスポーツ)を実施した。 ・大会専用ホームページやSNS(Instagram、Twitter)、大会広報誌を活用し、両大会の情報を発信した。 	○: 概ね予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きイベントにおいてスポーツ体験を実施する。
39	2 スポーツを支える人材の育成	<p>各種研修会の開催や講習会への派遣、公認指導者資格の取得推進等により、スポーツ推進の要となる指導者や競技役員等の計画的な養成を図る。</p>	<p>(左記のうち競技役員養成以外のこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀指導者養成事業で日本スポーツ協会公認指導者資格取得の支援を今年度17人の指導者を対象に行った。 ・各競技団体のプロジェクトチームリーダーおよび強化拠点校の顧問に対して、指導者の資質向上を図るための研修会・講演会を実施した。 <p>昨年度に引き続き国スポ・障スポにかかる競技役員等の養成および先催大会への視察などの事業に対する補助制度を継続して実施した。</p> <p>令和6年度の役員養成事業補助金の実施に向け、補助金交付要綱、実施要領等を見直し、改正した。</p>	○: 概ね予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度以降に取得する「日本スポーツ協会公認指導者資格」では第79回国スポでの監督資格が認められないため、優秀指導者養成事業については令和6年度は実施しない。 ・指導者の資質向上を図るための研修会は前年度同様に各競技団体に支援を実施する。 <p>○: 概ね予定どおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各競技団体が実施する中央競技団体(ブロック団体)が開催する講習会や全国大会(ブロック大会)への派遣、県内講習会の開催、先催大会の視察に対して支援を行う。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定												
第6節 『実施目標6 滋賀の未来に負担を残さない大会』に向けた取組																	
40	1 大会運営の簡素・効率化	先催県の情報やノウハウを活用するとともに、様々な創意工夫を凝らすことで、簡素・効率化を図る。	<p>(全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先催県検討会議等により、先催県の情報やノウハウを収集しつつ、先催県の手法にとらわれない検討も進め、準備活動において簡素・効率化に取り組んだ。 <p>(式典)</p> <ul style="list-style-type: none"> 選手や式典参加者等の負担軽減を念頭に、コンパクトでありながらも中身の充実した式典の実施・運営に向けて式典実施計画を策定した。 	○: 概ね予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き先催県の情報やノウハウを収集しながら、本県において「やること」「やらないこと」を検討し取組を推進していく。 												
41		競技用具は、県、会場地市町、競技団体等が現有するものの活用を原則とし、不足する競技用具については、先催県や後催県等と連携して借用や共同購入を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> 会場地市町が作成した競技用具整備計画(最終)調査のヒアリングを行い、競技用具の借用、購入について取りまとめを行った。 ローイング競技艇の共同購入について、開催4県(佐賀、滋賀、青森、宮崎)で協定書を締結した。 開催4県PFと協力し、艇の仕様変更を行った。 佐賀県における入札により、納入業者との売買契約書を締結した。 先催県からの有償譲渡による競技用具の取得について、情報収集を行った。 	◎: 予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> 参加する選手や出演者の負担軽減を念頭に、式典時間の短縮や演出方法等について検討していく。 コンパクトでありながらも中身の充実した式典の構築に向けて、実際に運営していくための具体案を検討し、式典実施要項の作成に着手していく。 												
42	2 財政負担等を考慮した施設整備	必要な施設は、既存施設の活用を基本とした上で、移転・改築等が必要な施設については、可能な限り寄附などの財源を確保し、事業費を抑制しながら整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設の活用を基本とした上で、移転・改築等が必要な施設整備を推進した。 ＜既存の県立スポーツ施設の活用＞ <table border="0" data-bbox="801 938 1267 1102"> <tr> <td>施設名</td> <td>国スポ実施競技</td> </tr> <tr> <td>・長浜バイオ大学ドーム</td> <td>相撲</td> </tr> <tr> <td>・ウカルちゃんアリーナ</td> <td>フェンシング・空手道</td> </tr> <tr> <td>・琵琶湖漕艇場</td> <td>ボート</td> </tr> <tr> <td>・OSPホッケースタジアム</td> <td>ホッケー</td> </tr> <tr> <td>・柳が崎ヨットハーバー</td> <td>セーリング</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備を活用用途とする寄附募集を実施した。 	施設名	国スポ実施競技	・長浜バイオ大学ドーム	相撲	・ウカルちゃんアリーナ	フェンシング・空手道	・琵琶湖漕艇場	ボート	・OSPホッケースタジアム	ホッケー	・柳が崎ヨットハーバー	セーリング	○: 概ね予定どおり	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き施設整備を進めるとともに、寄附募集を推進する。
施設名	国スポ実施競技																
・長浜バイオ大学ドーム	相撲																
・ウカルちゃんアリーナ	フェンシング・空手道																
・琵琶湖漕艇場	ボート																
・OSPホッケースタジアム	ホッケー																
・柳が崎ヨットハーバー	セーリング																

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
43	3 開催準備および大会運営における環境配慮	廃棄物の発生抑制や分別を図るとともに、環境に優しい製品(再生・再利用製品、省エネ製品等)の利用や地産地消に努める。	・印刷物作成にあたって、グリーン購入法適合用紙を使用するなど環境への配慮を実施した。 ・環境に配慮した大会運営に向けて、開催県検討会議で先催県の情報収集を行った。	○: 概ね予定どおり	・大会運営時にも、廃棄物の発生抑制や分別を図るとともに、より一層環境に優しい製品の利用や地産地消に努める必要がある。
44		施設・設備の整備に当たっては、必要な機能や経済性も考慮の上、再生資源を活用した資材や県産材の活用、省エネ製品や再生可能エネルギーの導入など、環境配慮に努める。	・必要な施設・設備の整備に当たっては、再生資源を活用した資材や県産材の活用等を進める方針を定め、実施している。	○: 概ね予定どおり	・引き続き配慮しながら整備を進める。
45		大会開催期間中における、マイカー自粛と公共交通機関の利用、アイドリングストップを呼びかけ、温室効果ガスの発生抑制に努める。	・マイカー自粛と公共交通機関の利用を呼び掛けるにあたり、効果的な広報および通勤方法の変更などの各種協力が見込める機関・団体について調査を行った。 ・R5.7月に「わたSHIGA輝く国スポ・障スポMLGs宣言」を行い、CO ₂ 排出量の削減等、環境に配慮した大会とすることを宣言した。	○: 概ね予定どおり ○: 概ね予定どおり	・「交通総量抑制会議」を立ち上げ、左記機関・団体に参画を依頼する。同会議内で大会開催期間中の交通量を抑制し、渋滞を解消する方法について議論した上、各団体の立場で行える対策について実施・協力を依頼する。 ・引き続き両大会において環境に配慮した大会となるように、他部局とも連携しながらCO ₂ 排出量削減に向けた取組について具体的な検討を進めていく。
46		○ 環境配慮の取組状況をホームページや開・閉会式会場等で情報発信するほか、クリーンアップ運動の取組などにより、県民や来場者の環境意識の醸成を図ります。	・印刷物や広報グッズ作製に環境負荷が少ないものを使用するなど環境への配慮を行った。 ・クイーンアップ運動について、令和6年度に開始できるよう準備を行った。	○: 概ね予定どおり	・引き続き、関係団体と連携してクリーンアップ運動に参加したり情報発信したりしていく必要がある。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
第7節 『実施目標7 すべての人がともに支え合う滋賀を目指す大会』に向けた取組					
47	1 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会の一体的な開催	開催準備・大会運営に係る基本方針・計画等は、国スポ・障スポ大会共通のものとして策定する。	・個別の大会に固有のものを除き、開催準備・大会運営に係る基本方針・計画等は国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会共通のものとして策定。	◎: 予定どおり	・今後も特別な場合を除き、方針・計画等を策定する場合は、全て原則として両大会の視点で検討を行い、両大会共通のものとして策定していく。
48		両大会の広報・情報発信や関連イベント・行事等を一体的に行う。	・各種啓発イベントにおいて、大会マスコットキャラクターの活用、のぼり旗等の掲示、広報グッズの配布、競技体験コーナーの設置等、両大会の周知PR活動を一体的に実施した。 ・愛称・スローガンを活用し、鉄道駅等での大型広告の掲示、地域情報誌への広告掲載、ラッピングトレイン・バスの運行、横断幕の掲示等による広報活動を一体的に実施した。 ・大会専用ホームページ、SNS、チラシ、ポスター、大会広報誌など、あらゆる媒体で、両大会共通の情報発信を実施した。	○: 概ね予定どおり	・引き続き一体的な広報・情報発信等を行う。
49		運営において、一体的に開催できる方法を検討し、共生社会実現に向けた滋賀の大会の姿を発信する。	・かごしま国体・障スポの視察を行ったほか、先催県における状況を把握した。	○: 概ね予定どおり	・今後、関係行事等(競技運営、式典、広報等)の工夫により、国スポ・障スポの一体的な開催を検討し、ノーマライゼーションの発信等につなげていく必要がある。
50		両大会に係るスポーツボランティアや競技役員等を一体的に養成する中で、障害に係る知識の普及や障害者理解の促進に係る講習等を行う。	(ボランティア) 令和6年度に実施する運営ボランティア研修において、障害者理解の促進に係る内容を行う予定で検討を進めた。	△: 一部実施	・令和6年度に実施する運営ボランティア研修において、障害者理解の促進に係る内容を行う予定。
51		国スポに向けた競技力向上の取組と併せて、全国障害者スポーツ大会に向けた競技力向上の取組を推進する。	(競技役員等) ・競技団体が役員養成のために行う障害者理解に関する講習会等の開催を支援した。	○: 概ね予定どおり	・令和6年度も引き続き障害者スポーツの理解を深める講習会等に対する支援を継続して実施する。
51		国スポに向けた競技力向上の取組と併せて、全国障害者スポーツ大会に向けた競技力向上の取組を推進する。	・拡充される2025強化指定選手の育成・強化事業に対して、新たに県障スポ協会への支援を行うなど、更に支援を強化した。 ・昨年度、近畿予選会に参加できなかった4競技のうち3競技が参加することができた。 ・当概年に想定される参加選手枠を精査し、関係機関に働きかけを行い、34名の選手を確保、また、育成・強化事業にかかわるスタッフを30名確保した。	○: 概ね予定どおり	・引き続き、拡充される2025強化指定選手の育成・強化事業に対する支援を行う。 ・令和7年3月に2025大会出場選手が決定することから、全ての競技種目に出場できるよう選手の充足に努めるとともに、育成・強化するためのスタッフの確保に努める。 ・他府県の選手との練習試合や大学生等による「練習パートナー」の練習会への参画などの取組を促進する。
52		県内外への両大会の情報発信や、大会文化プログラムに基づく文化・芸術事業を活用し、アール・ブリュットをはじめとした滋賀の福祉の先進的な取組を発信する。	・障スポ専門委員会において、大会文化プログラム実施要項改正案をはかり、総務企画専門委員会にて要項策定。また、9月より参加募集を開始した。	○: 概ね予定どおり	令和7年1月からの文化プログラム開催に向けてリーフレットや大会ホームページ等を活用しながら情報発信する。

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎: 予定どおり ○: 概ね予定どおり △: 一部実施 -: 未実施(今後実施)	今後の取組予定
53		各専門委員会等における障害のある人またはその関係団体の参画により、開催準備・大会運営に障害のある人の意見や視点を反映する。	・全国障害者スポーツ大会専門委員会において、障スポに関連する事項(他の専門委員会所管事項を含め)について意見照会・検討を実施した。	○: 概ね予定どおり	引き続き、障害のある人の意見や視点を反映させるため、全国障害者スポーツ大会専門委員会において障スポに関連する事項(他の専門委員会所管事項を含め)について、意見照会・検討を実施する。
54	2 障害のある人の大会準備・運営への参画および大会への参加の促進		(関連イベント) ・令和元年に実施した開催内定イベントや令和5年度に実施した開催2年前イベント等で、両大会のPR活動と併せて、障害のあるなしにかかわらず楽しむことが可能なスポーツ体験(ポッチャ、eスポーツ)を実施した。	○: 概ね予定どおり	引き続きイベントにおいて、障害のあるなしに関わらず楽しむことが可能なスポーツ体験を実施する。
		デモスポや両大会の関連イベント等に、障害のある人が参加しやすいものを設けるなど、障害のある人の参加に配慮するとともに、全国障害者スポーツ大会のオープン競技への参加を呼びかける。	(デモスポ) ・第2回国スポ競技運営担当者会議において、「誰もが参加できるデモスポ」の概要を説明するとともに、老若男女、障害の有無を問わず、幅広い参加者層を目指したルール設定や、競技会の在り方を検討いただけるよう呼びかけた。	○: 概ね予定どおり	・競技別実施要項の作成にあたって、会場地市町と主管団体に対して参加者の幅を広げる工夫をしてもらえるよう依頼していく。 ・事務局からも積極的に提案できるよう、大会の視察を行うなど、先催県の事例等を研究していく。
			・オープン競技実施種目について、県内の特別支援学校に足して実施団体を講師として派遣し、出前授業を実施した。普段スポーツに関わるのが困難な児童生徒も授業という枠組みで実施することで参加する機会やスポーツに出会うきっかけを築くことができた。	◎: 予定どおり	・R5年度なみに実施予定。また、大会終了後も学校が本事業を活用することができるよう、県障スポ協会およびスポーツ課等と協議を進めていく予定。 ・大会を契機に障害のある子どもの生活(余暇)の一つにスポーツという選択肢を増やすことができると良い。(レガシーの創出)

番号	取組項目	開催基本構想における記載内容 ※要約	進捗状況 ※令和5年度末時点	進捗評価 ◎：予定どおり ○：概ね予定どおり △：一部実施 －：未実施(今後実施)	今後の取組予定
55	3 ユニバーサルデザイン等に配慮した大会運営	<p>施設については、障スポ大会での利用も踏まえ、障害のある人や高齢者、子どもなど、すべての人が安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインへの配慮に努める。</p> <p>競技運営、ボランティア対応、情報保障、宿泊、輸送・交通などのあらゆる取組において、相手の状態や立場に立った、人に対して思いやりのある大会運営を行う。</p>	<p>(施設関係) ・市町が行う競技会場施設のバリアフリー化のための整備事業を市町競技施設整備費補助金の補助対象に追加し、令和2年度から市町に対して補助を行っている。</p> <p>(開・閉会式会場) ・開・閉会式会場等整備基本設計(業務委託)において、ユニバーサルデザインに配慮し、バリアフリートイレやスロープ、情報保障エリアの設置等を計画した。</p> <p>(宿泊関係) ・平成30年度に宿泊基本方針を、令和元年度に宿泊基本計画をそれぞれ策定し、同計画において「宿泊支援用具等を準備するなど、宿泊環境の整備に努める」旨を記載した。また、令和4年度に宿泊施設基礎調査において、バリアフリー設備の設置状況調査を実施し、令和5年度に車いす利用を想定した宿泊施設にバリアフリー調査を実施した。</p> <p>(輸送・交通関係) ・平成30年度に輸送・交通基本方針を、令和元年度に輸送・交通基本計画をそれぞれ策定し、同方針には「ユニバーサルデザイン車両の確保に努めるとともに、障害者等の移動に配慮する」旨を記載するとともに、障スポにおける輸送・交通業務の基本的事項を定めた。 ・令和5年度は、安全かつ優しい輸送を実現できるように導線や各施設のバリアフリー状況を勘案した輸送実施計画(第一次)を策定した。</p> <p>(情報保障・障スポ競技会場関係) 競技会場基本設計において、選手等にとって快適な会場となるよう関係者と協議した上で作成した。 (手話・要約筆記ボランティア) ・令和5年10月から手話・要約筆記ボランティアの募集を開始した。 ・ボランティア養成研修テキストを作成した。 ・令和6年に実施予定のボランティア養成研修に向けた検討・準備を進めた。</p>	<p>○：概ね予定どおり</p> <p>○：概ね予定どおり</p> <p>◎：予定どおり</p> <p>◎：予定どおり</p> <p>○：概ね予定どおり</p> <p>○：概ね予定どおり</p>	<p>・引き続き市町競技施設整備費補助金の活用により、市町立競技会場施設におけるバリアフリー化を促進する。</p> <p>・令和6年度は、開・閉会式会場等整備実施設計(業務委託)において、基本設計や現地調査をもとに、仮設施設のユニバーサルデザインの詳細設計を行う。</p> <p>・今後の配宿業務に係る業務委託の中で、宿泊施設のバリアフリーの状況調査を継続し、参加者の障害特性を踏まえた宿泊支援用具の準備計画や、スロープ等の仮設物の設置計画の作成を進める。</p> <p>(輸送交通) 令和6年度は、交通看板のデザインや障害の有無を問わず優しい輸送方法などに配慮した輸送実施計画(第二次)を策定する。</p> <p>(情報保障・障スポ競技会場関係) ・今後の競技会場実施設計等の検討の中で、関係機関等と連携し、取り組みを進める必要がある。 (手話・要約筆記ボランティア) ・ボランティア応募者に対し、ボランティア養成講座研修や活動希望調査を実施する。 ・ボランティアの配置を検討する。 ・業務マニュアルの内容について検討する。</p>
56		<p>ジュニア・ユースチームの「心がけ宣言」等を踏まえ、「心のバリアフリー」について情報発信し、障害のある人に配慮した行動を広く呼びかける。</p>	<p>・第3期生の活動で、施設や設備の利用マナーの向上や、困っている方への声掛けなどの行動等を記載した「心がけ宣言」をとりまとめた。 ・「国スポ・障スポ教室」の中で手話歌体験等を行い、障害者理解を深めるとともに、お互いを大切にする思いやりの心を育てる機会とした。</p>	<p>○：概ね予定どおり</p>	<p>・今後も「国スポ・障スポ教室」の中で障害者理解を深め、小中学生の児童生徒たちにお互いを大切にする思いやりの心を育てる場とする。</p>